

☆ ハエの防除対策をしましょう ☆

H25.6.5

気温が上昇し、ハエの発生が目立つ時期です



ハエの産卵個数は50～150個で8～15日でふ化します。対策を怠ると大量発生し、家畜へのストレス・病原体の媒介・近隣からの苦情など深刻な弊害を生じます。薬剤を適切に使用し、効率的な防除に努めましょう。

【堆肥処理】

適切な堆肥処理により、発酵熱と乾燥でウジを退治します。適切な水分調節と切り返しが重要です。良好な発酵処理により温度が40℃以上、水分50%以下の条件でふ化率が激減します。卵がふ化しない1週間以内の間隔で切り返しを行うことが必要です。

【幼虫対策】

費用対効果が高い方法です。ウジの発生する場所にIGR剤(脱皮抑制剤)を水で希釈して1ヶ月毎に散布します。薬剤の濃度を守り、十分な量を均一に散布します。散布する間隔があき、薬効に切れ目をつくると十分な効果が得られません。IGR剤:シロマジン剤、ジフルベンズロン剤、ピリプロキシフェン剤など。

【成虫対策】

ハエが増えてきたら、IGR剤の散布回数を2週間間隔に増やし、毒餌法をあわせて実施します。毒餌法は、ハエを引きつける砂糖や粉ミルク、お酒、糖蜜などに有機リン系、カーバメイト系の薬剤を混合して洗面器等に浅く入れておき成虫を退治します。家畜やペットの口に入らないように注意が必要です。

毒餌法:①薬剤を水で10倍に希釈する。

②0.5%程度の糖蜜や砂糖水を混合して洗面器等に適量入れる。
必要に応じて粉ミルク、お酒を加えてみる。

③農場内の適切な場所に配置する。

有機リン系:トリクロルホン剤、フェントロチオン剤、プロチオホス剤など

カーバメイト系:プロポクスル剤、カルバリル剤、バリゾン乳剤など

固形の毒餌としては、イミダクトプリド剤が市販されています。